



本社・工場 〒960-0101 福島県福島市瀬上町字下新田39-1 TEL 024-553-0811 FAX 024-553-9303
 仙台営業所 〒983-0003 宮城県仙台市宮城野区岡田字北高屋敷31-1 TEL 022-258-9521 FAX 022-258-9535

3月期決算は、前期比で売上高、粗利益ともに横ばいを予想している。工業関連の商品需要を前期比でみると、

当協会には高圧ガスの製造と販売に携わる22事業所が加盟しており、各種行事の開催や周知文書の配布などにより保安の啓発活動をしている。主な年間行事には、6月に総会、8月には県と地域防災協議会と共同での総会、10月に地域防災協議会と共同での高圧ガス保安講習会、11月に高圧ガス保安東北大会がある。

具体的活動例を挙げると、昨年は濁上市で総合防災訓練が行われた。実演者には当協会中央支部所属の東北エア・ウオーターと相場商店のほか、秋田県LPGガス協会からも各2人が参加し、災害時を想定した医療用酸素の運搬やLPGガス発電機の作動訓練が行われた。



次世代育成し対応力を強化 福島酸素社長・伊藤俊一氏

当社は福島、二本松、郡山、白河と4営業拠点を有し、中通り地区の顧客に対し、主に高圧ガス(産業用・医療用)、LPGガス、産業用機械を販売している。工業関連の顧客の業況をみると、自動車部品メーカーは堅調を維持しているものの、鉄骨加工は首都圏案件を受注している大手を除き、仕事量は増えない。また精密板金加工の仕事量も、加工対象物が鉄から樹脂などの素材に変わりつつあることから減少傾向にある。

このように、当社の3月期決算は、前期比で売上高、粗利益ともに横ばいを予想している。工業関連の商品需要を前期比でみると、



ガスを通して安心と信頼をお届けします

福島酸素株式会社

福島本社 / 二本松営業所 / 郡山営業所 / 白河営業所
 〒960-8003 福島県福島市森合字戸ノ内29番地
 TEL.024-557-5991 FAX.024-557-1222
 ホームページ / http://www.fukushimasanso.co.jp

放置容器ゼロへ指針策定

秋田県高圧ガス協会会長 相場栄利氏

また秋田市内で開催された保安講習会では、協一キング・グループを設けた保安講習会を合わせた約1000人が参加のことも期待している。今年度は4人によるワンキング・グループを設けた保安講習会を設けた。置して容器管理指針の原案を練っており、今年6月の総会までに指針を策定する予定だ。明文化により会員企業の自主保安意識が高まり、トレーサビリティを徹底し、放置容器ゼロへとつながることを期待している。

鳥インフルエンザなどの家畜伝染病発生時に殺処分用に使われる液化炭酸ガスなどの供給については、昨年2月に県側と協定書を締結し、対象となる家畜伝染病、緊急時には県が当協会側に協力を要請できる旨、要請時の供給・運搬・引き渡し方法などを確認した。このように今年度の活動内容をふまえ、来年度以降も保安関連のトピックスを盛り込みながら、引き続き会員企業と消費者の保安啓発に努めていきたい。

団体トップ(秋田・宮城)の活動方針

私が会長を拝命している宮城県高圧ガス保安協会では、様々な施策を実施しながら県内の高圧ガス保安確保に取り組んでいる。そのかわらわら、私は全国高圧ガス溶材組合連合会(全溶連)で経済委員長を拝命しており、「保安と経済は車の両輪」という考えのもと、保安委員会との連携を図ることによって業界全体での事故撲滅を目指しているところだ。

業界で現在、大きな課題となっているのが鳥インフルエンザ対策である。昨年暮れには青森県で鳥インフルエンザが発生したが、今後、どこで発生するかわからないだ。地は宮城県を南北に分けて、4カ所ある充填所から炭酸ガスを供給する。スが取れている。供給基地は宮城県を南北に分けて、4カ所ある充填所から炭酸ガスを供給する。

鳥インフル対策に全力投入

宮城県高圧ガス保安協会会長 佐藤俊明氏



宮城県では当面、ガスメーカーが中心となって初期対応を行い、販売店がそれを補足する形で対応に当たることがコンセンサスがとれている。今年、10月以降に開催している。最新のユーザは、ロケットといった重要が高まってきた。

工所などが該当する。を開催したこともあす(産業界・医療界) 窒素が5%増、炭酸と液化ガスと関連機械、太セチレンが微減、水素 客先が10%増で推移している。特に酸素は解体工

専門商社の「景況感」

東北WF10月開催決まる

マシモト産業東北支店長代理 岡本光丞氏



当支店の業績は、昨年度が大変好調だった。このように、当社の3月期決算は、前期比で売上高、粗利益ともに横ばいを予想している。工業関連の商品需要を前期比でみると、

注ぎてはいるもの強化していく。現在、メッセみやきで開催している。このように特徴ある商品に、最新のユーザは、ロケットといった重要が高まってきた。

また秋の一大イベントとして定着した「東北ウェルディングフェアスタ」は今年も10月27日のアレ・オープンを皮切りに、28日、29日の2日間、仙台市の夢集めていくことから、4月からは、さらなる拡販を



産業ガス軸に需要増目指す ユミヤマ社長・山崎隆雄氏

当社は福島市の本社、工場を拠点に、高圧ガスと溶接関連機械を軸とする見込みだ。顧客が採択され難くなった励行ことが影響し、新規・人手買い換えとともに受注量が減った。

直近の需要動向を示す今年3月期決算は、前期比で売上高3%増、粗利益が前期並み。顧客が採択され難くなった励行ことが影響し、新規・人手買い換えとともに受注量が減った。

4月から始まる新年度は、今期に比べ3%程度の増収増益をめざす。溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。

炭酸が10%減、アセチレンが微減、窒素が横ばい、アルゴンと工業用LPGが微増となる見込みだ。また溶材も、高圧ガス需要に比例して3%減を予想している。

溶接機やロボットなど、設備機器も、前期比で10%減となる見込みだ。復興需要の一巡が探られ、人手買い換えとともに受注量が減った。